

大変な中で分かったこと

宇出津小学校 四年 重國 愛奈

五月に、私は生まれてはじめて田うえ体験をしました。おかしいな。イメージトレーニングはできていたのに、足がはまって思うように歩けない。自分でもわらってしまいうくらい動けなくなっで、一しよにいた友達みんなで何回もしりもちをついて、終わった時にはクネクネにうえられた田んぼと、おしりまでどろんこの集団がてきあがりしました。

小さいころから私は、おじいちゃんが田んぼにかよつうのを見てきました。朝早くから、夕方くらくなるまで毎日のようにおせわをしに出かけて行くのを見ていて、買ったほうが楽なの。と思つていました。けれど、なぜかおじいちゃんの作るお米は、私にはやさしいあじに思えて大好きで、たくさん遊んでほしいの、田んぼに行くおじいちゃんに、行かないでほしいとは言えませんでした。おじいちゃんがなくなつて、スーパーで買

てきたお米を食べるようになり、おいしいの
に、どこかさみしい気持ちでいました。

一月に能登羊島地しんがおきました。その
日は、おばあちゃん、おたん、おひる、おあつたの
ど、おいおいをして家を出てすぐの事でした
立っていられないほどのゆれで、お父さんに
しがみつくのがやつとの中で、まわりの家や
そうごがくずれていくのが見えました。そし
て津波が来て。それから先は、こわかった事
と、これからどうなるのかのふ安ばかりでよ
くおぼえていないけれど、おちついて見た時
には、もうおじいちゃん、おばあちゃんの家
も、まわりの家も大変なひがいにあつていて、
あれだけ広がっていた田んぼも、津波や、家
がなくなつてしまつた事でおせわができない
人達ばかりになつて、見ているだけでなみだ
が出るような、とてもかなしいけしきになつ
てしまいました。

私の家族は、みんなふじだつたけれど、つ
らい思いをさせている人もたくさんいます。

ひなん所でごはんをもらって食べました。お湯を入れてしばらくまつと食べられるごはんを、二人で一ふくろ分けて食べました。ふだんなら、ぜんぜんおいしくないうつて言うのかもしれません。その時はとってもおいしく感じました。生きていてくれてありがとうございます。言い合っていない人達もたくさん見ました。えんりよしてごはんを食べないでいるおばあちゃんに、おにぎりをわたした時の、ポロポロと流したなみだはあすれないし、こんな事は、もう二度とおきてほしくない。お米の大せつさも、あらためて感じました。

「いただきます」の意みを、こんなにしっかりと考えた事もなかった私は、田うえ体験のぼしゅうに、すぐにとびつきました。イメージとおりにいかないむずかしさと、それでも終わった時の気持ちのよさは、自分だけじゃなく、喜んでくれる人の顔を思いうかべられたからだと思います。おじいちゃんが毎日田んぼに行っていた気持ちが少し分かりました。